

The High Priest 大祭司

リーダーの手引き

祈

りの 10 日間へようこそ！

2006 年に「世界的な聖霊の注ぎを求める運動」がスタートして以来、10 日間の祈りを通じて、主は多くの奇跡を行なってこられました。聖霊は、リバイバル、回心、伝道への熱意の回復と、関係における癒しを与えてくださいました。まさしく、祈りはリバイバルが生まれる場なのです！

この手引きは、リーダーであるあなたを助けるために作られたものです。最初の部分は 2018 年「祈りの 10 日間」に関する内容を取り上げ、次の部分はあなたやあなたの所属する教会の祈りの組を助ける内容が含まれています。ただし、これらはあくまでも参考程度に用いてください。聖霊の導きに従って、内容を調整して構いません。

2018 年 1 月 10 日から 20 日の「祈りの 10 日間」の期間中、あなたの所属するグループの皆様で毎日、直接顔を合わせるか、あるいは電話で約 1 時間の「祈りの輪」に参加する必要があります。もし、あなたの教会が 1 月 10 日から 20 日に「祈りの 10 日間」を持つことが出来ないとしたら、可能な日に行くことをおすすめします。11 日目の 1 月 20 日は安息日です。この日は、「祈りの輪」におけるわたしたちの祈りに応えてくださった神に感謝をささげる日です。こうした提案によって、あなたの所属する小グループや教会にとって助けとなり、「祈りの 10 日間」の力強い体験をしていただければ幸いです。

2017 年「祈りの 10 日間」に参加した方々の証です。

SHADRECK CHARUMBIRA

シャドレック・チャルンビラ
「感謝します！ 私たちの教会はリバイバルされ、かつて分裂していた教会に素晴らしい一致がもたらされました。私たちは天の聖所においてキリストを目撃し、今の私たちの祈りはキリストと繋がりに続けることにあります。私たちの祈りの結果、教会の一致がもたらされたので、これから他の人の証もお送りします。」

GWEN PAKUA, SARAKOLOK KIMBE, WEST NEW BRITAIN PROVINCE, PNG

グウェン・パクア
パプアニューギニア、西ニューブリテン州、キンベ
「素晴らしいプログラムをありがとうございます。私は小さな教会の、祈りの伝道におけるリーダーのアシスタントに任命されました。私たちは安息日のプログラムを断食祈祷から始め、祈りの 10 日間を水曜日に開始しました。祈祷会にはたくさんの人々が集まりました。主は私たちの祈りに応えてくださり、数年間、牧師が与えられませんでした。ついに教区から牧師

を送ってくださいました。どうか、私と私たちの小さな教会のために祈りください。」

DANNY MOONIE, DES BARRAS, ST. LUCIA

ダニー・ムーニー
セントルシア
「私たちの教会は、夜、祈りの 10 日間を行うために教会員を迎えに行くバスを用意しました。運転手はいつも日曜や水曜の晩に行われる祈祷会のために送り迎えをしてくださいました。祈祷会の最初の晩、誰かがその運転手に祈祷会に誘ってみると、参加してくれたのです！その運転手は家に帰ってから婚約者に

祈禱会の出来事をわちあい、次の晩には婚約者も祈禱会へ誘って来てくれました。すべての祈禱会に二人で参加してくれました。祈りの10日間の最終日の前に、二人は第一長老にまもなく結婚する予定であることと、主に従いたいという気持ちを伝えました。どうか彼らのことを祈りの内におぼえてください。この10日間は本当に祝福されました。私たちは毎回、用意していただいた資料に従い、祈禱会を行いました。私たちは最後の晩餐から復活までのキリストの聖句を読みました。毎晩、私たちは聖霊に満たされました。40名の参加者の内、20名が教会員の友人や知人でした。私たちは神の臨在を感じ、祈りの10日間の間、祈られていることを感じました。引き続き、神皆さんの教会に聖霊を注いでくださいますように。」

DORIS JOHNSON,
RICHMOND, VIRGINIA, USA
ドリス・ジョンソン

アメリカ バージニア州、リッチモンド

「祈りの10日間は祝福された時でした。説教者や参加者、祈りの輪に電話で加わった人たち全員が聖霊の注ぎを経験しました。電話で祈ってくれた人たちは、5つの異なる州に住む様々な宗派の人たちでした。神の王国にたくさんの魂を得るため、この活動を与えてくださった神に感謝します。」

BEAULITY DUBE

ビューリティ・デュヴ

「この祈りの10日間で、どんなに素晴らしい時を過ごしたでしょう！私は主に学費が与えられるよう、祈り求めました。祈った時は、それがどこから与えられるか全く見当が付きませんでした。私たちが仕えている神は生きておられます！私の祈りは二日目に応えられたのです。ご自分の民に忠実な神を永遠に讃美します。」

ELIJAH MWAKIO, KENYA
COAST FIELD

エリジャ・ムワキオ
ケニヤ

「その年の初め、ジャスティンとはとても落ち込んでいました。問題が家計や家族のことまで及んでいたのです。祈りの10日間を経験し、彼は平安と安らぎを見出しました。このような体験は初めてで、神は素晴らしく善なるお方であることを認めました。」

RONNIE NAIDOO,
JOHANNESBURG, SOUTH
AFRICA

ロニー・ナイドゥー
南アフリカ、ヨハネスブルグ

「私たちの教会（ノースサイド教会）は過去6年間にわたって、祈りの10日間に参加してきました。今年もいつものように、私たちのグループは、祈りと賛美、礼拝、家庭訪問を行うために集まりました。私たちはある夜、教会員の一人が家の外でハイジャックされ、人気のない所に連れて行かれたと聞きました。このような状況ではたいてい、悲惨な結末に終わることが多いのですが、私たち教会員はひざまずいて祈り、神の子に何の危害も与えないよう、神の栄光を求めました。1時間後、ウェスリーは危害なく、解放されたことを聞きました。私は、神がご自分の子を助けるために天使を送られたとしか説明できない奇跡だと信じています。車は修理され、ウェスリーはおののきでしたが、彼の神への信仰は増し加えられました。彼は事件の後、たった二日で安息日の役目を果たせたのです。神に栄光が帰され、この証により、世界中の兄弟姉妹が励まされますように。」

「祈りの 10 日間」の助け

なぜ大祭司の衣服を学ぶのか

神はその造られたすべてに目的を持っておられます。あらゆるものに存在する意味と理由があります。このことは大祭司の衣服にもあてはまります。『人類のあけぼの』には次のように記載されています。「祭司の衣服と動作のすべては、それを見る者に、神の神聖なこと、その礼拝が清いものであること神の前に来る者には純潔が要求されることなどを、深く感銘させるものでなければならなかった」（上巻、414 頁）。21 世紀に住む私たちが、祭司の衣服の象徴から学べることを調べていきましょう。

日毎のテーマ

10 日間、日毎のテーマが準備されています。最初のページには、具体的な祈りの課題と讃美歌についての提案を含む、祈りの時間についての提案が記されています。2 ページ目には、その日の夜のテーマについて考えを深められる聖句と証の書からの引用があります。日毎のテーマが書かれた用紙をコピーして参加者に配付し、祈りの時に各自の手元に準備することが望ましいです。用紙の両面にコピーをするのも良いでしょう。

世界中の教会が、日毎のテーマを祈ることによって心をつにすることができるのです。聖句および証の書の引用、また祈りの課題についての提案を用いて祈りの輪に加わりましょう。ただし、これは絶対に日毎のテーマに沿わなければならないということではありません。

小グループに分け、祈りのテーマを分担して祈ることも可能です。

いくつかの祈りのテーマは、世界中のアドベンチスト教会に関わることです。私たちの教会のために一緒に祈ることも大切ですが、地域の人々の参加がある場合、祈りの時間に、より一般的な祈りのテーマを祈ることも可能です。訪問者を歓迎し、その人々も一員として一緒に祈りましょう。

祭司の装飾のシンボルにおける証の書の引用

毎日、証の書からの引用といくつかの聖句が紹介されています。それらはエレン・ホワイトの様々な書物からの引用で、祭司の装飾が何を示しているか、教えています。グループの皆様で一緒にお読みになることをお勧めします。その日の祈りのテーマを明確にするためにも、祈禱会の最初、あるいは途中で読むようにしても良いでしょう。

祈禱会の進め方についての提案

各部分にどれだけの時間をかけるかについては、祈る度に違ってくると思います。

以下は、目安となる時間配分の参考例です。

- 歓迎、導入：2～5 分
- 聖書及び証の書の朗読：3 分
- 神を讃美する祈りの時間：10 分
- 罪の告白と罪への勝利を求める祈りの時間：3～5 分
- 嘆願と執り成しの祈りの時間：35 分
- 感謝の祈りの時間：10 分

7 人のために執り成しをしましょう

祈りの 10 日間において、祈るべき 7 人を示してくださるように神様に求めることを奨励しましょう。家族、友人、職場の同僚、教会員などが示されるかも知れません。その 7 人がキリストとつながることができるように聖霊が導いてくださることを祈り求めましょう。また、7 人の必要について、いかに祈るべきかを神様が示してくださるように、そして、10 日の間に 7 人への働きかけをすることができるよう祈りましょう。

2018 年「祈りの 10 日間」における安息日について

期間中 2 回安息日がありますが、その両方において特別な祈りの課題を決めて祈り、応えられた祈りについての証しをしましょう。日々行われる祈禱会で何が起きているかを神の家族である教会員と分かち合う方法はたくさんあります。柔軟に発想しましょう。

最後の安息日について

最後の安息日は特に、祈りの 10 日間を通して神様がしてくださった御業を心から喜ぶ時として計画されるべきです。応えられた祈りについての証し、祈りについての聖書の教えと説教、そして讃美の時間を十分に確保しましょう。それまでの日毎の祈禱会に参加できなかった人たちも、隣人のために祈ることの喜びを体験することができるように会衆を導きましょう。11 日目の資料にもっと多くのアイデアが記されています。

2018 年「祈りの 10 日間」へのフォローアップ

2017 年の祈りの 10 日間で、神があなたの教会もしくはグループで始められた御業を完成されるよう、より熱心に祈りましょう。それは、毎週の祈禱会を継続することかも知れませんが、教会内、もしくは地域における伝道のために新しい働きを始めることが示されるかも知れません。心を開いて、神が導かれるままに従いましょう。主と共に歩む時、私たちはたくさんの驚きを体験することでしょう。

証し

2018 年「祈りの 10 日間」を通して神がどのように働かれたかを是非分かち合ってください！ あなたの経験は他の参加者たちにとっての励ましとなります。証しはメール (stories@ministerialassociation.org) または、オンラインで提出することもできます。 (www.tendaysofprayer.org)

「祈りの輪」の指針

賛同の祈り

神に願いをささげる時、他の人が同じ願いをささげていれば、心に留め「賛同」しましょう。これは力ある祈りです。もうすでに他の人がささげてしまった願いだから、同じことについて祈る必要はない、ということはありません。

「また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心をつなげて求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる」 (マタイ 18 : 19)。祈りの中で高められることは、いかに大きな励ましとなることでしょう！

神の約束に基づいて祈る

祈りにおいて、用いることのできる様々な約束を載せたテキストを準備しました。祈禱会で、神の約束に従って祈ることを奨励しましょう。私たちの問題に目を向けることはたやすいことです。しかし、神の約束に基づいて祈る時、私たちは自分の信仰を強めることができますし、神がいなければすべては不可能であるということを確認することができます。神の約束は、私たちが自分の弱さや困難に目を向けるのではなく、キリストに目を向ける上で助けとなります。どんな弱さや困難であれ、それらに対する主の約束を聖書の中に見出すことができます。より多くの約束を探し、それを書き留め、今後それらの約束に基づいて祈ることができるように奨励しましょう。

「心からの単純さをもって、わたしたちの必要を主に申し上げなければならない。そして、わたしたちが、祈りによって、神と共に勝利することを学んだことを会衆がわかるように、信仰と確信をもって主の約束を自分のものとしなければならない。彼らは、主が集会に臨在しておられることを信じるように励まされ、彼の豊かな祝福を受けようと心を開くのである。彼らは、ますますあなたの誠実さを信頼するようになり、説教者の教えを快く聞く用意ができるのである。」

(『伝道』上巻 197～198 ページ)

「神は神と力を合わせるもののために、あふれる祝福を天に備えておられる。神に従う者は、すべて、確信をもって、神の約束の成就を求めることができるのである。しかし、わたしたちは、神に対する堅い不動の信頼を示さなければならない。主はわたしたちの信仰を試み、心の願いが純粋なものであるかどうかをためすために、時には祈りに対する応答をお延ばしになることもある。わたしたちは神のみ言葉に従って求めたのであるから、神の約束を信じ、この祈りは必ず聞きとどけられることを確信して、祈り続けなければならない」『キリストの実物教訓』 122 頁

断食

「祈りの 10 日間」に参加する人たちに、テレビを見ないこと、世俗の音楽を聴かないこと、映画、インターネット、甘い食べ物や消化に悪い食べ物を口にしないことなど、何らかの形で断食をするように勧めましょう。それによってできた時間を祈りと聖書の学びに用い、あなたと教会員とがキリストによりしっかりとつながることができるよう神に求めましょう。簡素な食事に慣れることにより、聖霊の声に耳を傾けることができる心が整えられるのです。

聖霊

一人の人のために、または特定の状況において何をどのように祈るべきかを教えていただけるよう聖霊に求めましょう。聖書には、「私たちはどう祈るべきかを知らないが、聖霊が私たちのために執り成してくださる」と書かれています。

「わたしたちは、キリストの名によって祈るだけではなくて、聖霊に感じて祈らなければならない。『御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである』と言われているのは、そのことを説明している。このような祈りを神は喜んで聞いてくださるのである（ローマ 8 : 26）。熱心に力をこめて、キリストの名によって祈るならば、そのような熱心さをもって祈ること自体が、『求めたところのいっさいを、はるかに越えて』神がわたしたちの祈りに答えようとしておられることの神の保証なのである（エペソ 3 : 20）。」（『キリストの実物教訓』 126 ページ）

物理的一致

祈りの輪の時間を始める際には、全員が近くに集まるようにしましょう。それぞれが近づき輪を作ることは、祈りの輪において非常に大切な一致の精神を高めるのに役立ちます。参加者が部屋のあちこちに散らばっていると、それぞれの祈りの言葉も聞こえにくくなるものです。

記録を残す

「祈りの 10 日間」の記録を残すことは、日毎の祈りの課題を自分のものにし、神に対する献身を確かなものとし、主の祝福を受ける上での有益な方法です。私たちの祈りを書き出し、神の応えを記録しておくことは、励ましを得る確かな方法にもなるのです。

「祈りの 10 日間」の記録の残し方は、いくつか考えられるでしょう。個人的な祈りの記録に、祈りに対する神の応えを記録していく時間を祈祷会中に設けることができます。もしくは、グループとして、祈りの中でささげた願いごととその応えを記録することもできます。ノートでも、大きなポスターでも、あるいはオンライン上でも良いでしょう。単純な例としては、紙の中央部分に縦線を引き、願いごとを左側に、それに対する答えを右側に書くことです。神が、私たちの祈りにいかに応えてくださったかを振り返ることは喜びであり、信仰も強められます。

敬虔さ

敬虔な態度を奨励し、それをモデル化しましょう。わたしたちは宇宙の王の御座に近づこうとしているのです。祈りの時を、特に時間を気にしたり、単なる習慣として漫然と過ごすだけの時間にしないようにしましょう。しかし、祈る時には常にひざまずかなければならないというわけではありません。教会員に素敵な1時間を過ごしてもらうために、神が導かれるままに、それぞれに無理のないところで、祈ることを勧めましょう。（ひざまずいたり座ったり、もしくは立ったまま）

簡潔な祈り

祈りは短く要点を得るべきです。それによって、他の人たちに祈る機会を与えるのです。祈りの言葉を2、3行の文章にまとめられるように挑戦してみましょう。それぞれが何回祈っても良いのです。短い文章の祈りは、祈りの時を飽きないものとさせ、聖霊の神が私たちにどのように祈ったら良いかを教えてくださることにつながります。短い文章の祈りを毎回「天の神様」や「御名によって祈ります、アーメン」などの言葉で始め終わる必要はありません。祈りは神との会話なのです。

静かな時間

リーダーとして、祈りの時間にとらわれすぎてはいけません。心がけるべきことは、様々な人に祈ってもらうということです。神に語っていただくという静かな時間を過ごすことは素晴らしいことです。聖霊のお働きに委ね、全員に祈りの機会を提供しましょう。

讃美

祈りの途中での自然に起こる讃美は、祈祷会に美しさを加えます。毎回、祈祷会の文書に、それぞれ祈りの課題に相応しい讃美歌が紹介されています。すべての讃美歌を用いる必要はありません。これは単なる提案です。讃美は、一つの祈りの項目から他に移行する時にも用いることができます。

祈りの課題についての話し合い

祈りの課題を、グループから挙げるのではなく、各自がそれぞれの願いをささげるようにし、他の人たちがそれらの願いに賛同したり、それぞれの祈りをもって参加したりすることを奨励しましょう。その理由は時間です。祈りの課題について話し合うのに最も時間を要するからです。サタンは、私たちが問題について祈るとき、それについて話し合うことばかりに目を向けさせることを喜びとするのです。カウンセリングをしたり、問題解決の方法を提案したりする人もいるでしょう。しかし、力は神様から来るのです！わたしたちが祈れば祈るほど、主の大きな力が与えられるのです。

日毎の時間

これは非常に大切です！ リーダーとしてあなたは日々、キリストのもとで時間を過ごし、主と語り、御言葉を読まなければなりません。もし、あなたが神を知ることが人生における最優先事項とするなら、素晴らしい経験への扉が開かれることでしょう。

「大宗教改革によって世界を揺り動かした力は、密室の祈りから出たものであった。そこにおいて、神聖な静けさのうちに、主のしもべたちは神の約束の岩の上にしっかりと立った。」（『各時代の大争闘』上巻、261ページ）